

九州大学経営協議会議事録

日時：平成23年9月27日（火）13：00～15：05

場所：九州大学本部第一会議室

出席者：（略）

【審議事項等】

1 基幹教育院の設置について

全学的な教育組織として平成23年10月1日に「基幹教育院」を設置し、現在の全学教育に代わるものとなる基幹教育を、平成26年4月から開始する予定である旨の報告があった。

その際、以下のような意見等があった。

- ・ 大学が教養部を廃止する傾向にある中で、スキル教育が重視されすぎているとと思っていたので、全人的教育としての非常にいい取り組みであると思う。
- ・ アクティブ・ラーナーの育成からもう一步推し進めて欲しい。これからは、グローバルに活躍できる、リーダーシップを取れるような人材が求められていると思う。
→ まずは基幹教育院でしっかりと学ぶ態度を修得した上で、更なる育成を行うという仕組みになると考えている。
- ・ 全学教育運営上の課題の一つである「全学教育を相対的に軽視する傾向」を克服するためには、教員の意識改革が必要と思うが、どういう対応策を考えているのか。
→ 研究能力に優れるのみならず、教育熱心でユニークな教育を実践できる教員を集めようと考えている。そのためには、教育活動をどう分析・評価するかという評価システムを確立することが課題であり、インセンティブの付与についても検討する必要がある。基幹教育院が九州大学の顔であると全教員が認識するようにしていきたい。
- ・ 今後は全学教育への従事に対する手当の措置等を検討していくべきであると思う。
- ・ 海外の学生と交流させることが、学生にとっては非常に大きな刺激になる。教えるというよりも徹底的に交流させるということが必要であると思う。
→ 留学生と日本人学生が混住する寮を建設する等、留学生との交流については強く意識している。また、国際教養学部構想も踏まえて留学生が増加していく中で、自然に留学生との交流が行えるのではないかと考えている。今後も海外への派遣・留学について大学として取り組んでいかねばならないと考えている。
- ・ 基幹教育院のマネジメントは非常に難しく、同院に所属していない教員にとって、自分達には関係ないということにならないよう、工夫が必要であると思う。
- ・ 学生同士の交流は社会に出た時に非常に意味を持つため、これを重視させることについても意識して欲しい。
- ・ 目標に対し、教育の方法論にまでは及んでいないため、もっと詰めていく必要がある。
→ 今後、少人数制ゼミ、問題解決型授業等の活用などを検討しつつ、現在の全学教育に代わる基幹教育の平成26年度開始に向けて準備していく所存である。
- ・ 知識偏重から高い思考力涵養へという考え方自体が本当に正しいのか、知識偏重を簡単に切り捨てることには問題があるのではないか。
→ 即戦力的な面が要求されることもあり、基本的なことは全部教える必要性がある

が、技術の進歩が早く、教えた知識等が通用する期間は限られる。そのため、「こうすればわかる」という学び方を修得した学生を育成していきたいと考えている。

- ・ この分野で自分は世界一になるというような目標を早い時期に持つことが非常に大事であり、学生に早く目標を持たせることができる教育方法を工夫する必要がある。
- ・ 教育の本質は天性を見出して育ててやることにあるが、この実現のためには、一人一人に教員が対峙してじっくりとやるという方法を取る必要があると思う。
- ・ 伸びる子は率先して伸ばしてやることが大事である。先頭集団を伸ばしてやると全体も伸びることになり、学生にとっては大きな刺激になる。
- ・ 基幹教育院が目指すべきところを当人である学生に認識させる、理解させるということも大事なことであると思う。

2 箱崎キャンパス等跡地の活用について

伊都キャンパスへの移転に伴う箱崎キャンパス等跡地の活用に関して、現在の構想案について報告があった。

3 九州大学百周年記念事業について

九州大学百周年記念事業の寄附状況、九州大学百周年記念事業基金から九州大学基金への移行及び各種百周年記念行事の概要等について報告があった。

4 九大病院の財務構造等について

九州大学病院の財務構造の概要等について報告があった。

【その他】

次回の開催について

今回は平成24年1月19日（木）に開催予定である旨の案内があった。

【懇談】

会議後、九州大学の理工系における新たな取り組みについて説明があった後、当該説明内容及び資料等に基づいて懇談を行った。

(以 上)